

[1] 芸術工学研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4060940>

出版情報：芸術工学研究. 1, 1999-10-30. 九州芸術工科大学
バージョン：
権利関係：

「芸術工学研究」の創刊にあたって

学長 吉田 将

今日のようにあらゆる学問分野で多様な学術研究の発表の場が用意されている時代に各大学が自前の学術研究誌を刊行することが必要かどうかについて、多くの議論が交わされた。

とくに、「芸術工学」のように多くの科学、芸術、技術分野の成果を基礎として、これらを総合し、ものごとの計画・設計、すなわち、高次のデザインにあたることを目指す実践的な分野にかかわる研究においては、それぞれの背景となる分野で、すでに権威ある研究発表の場が用意されており、それらを利用すれば研究成果の公表には事足りるのではないかという意見は根強く存在する。

このような事情を反映して、本学では研究発表の場としては、従来から主として、一般教育関連の有志による「研究論集」のみを刊行してきた。しかし、平成9年度に学部学科の改組転換により一般教育の組織が改組され、全教官が専門学科の構成員となったのを機会にその在り方が再検討され今日に到っていた。

本学は、昨1998年に創設30周年を迎えた。この間、芸術工学の確立に先駆者として努力し、その教育研究に成果をあげてきたと自負している。今回、本学の存在意義と、芸術工学の理念に沿った研究が如何なるものを世に周知させる活動の一環として、新たに「芸術工学研究」を創刊することとした次第である。

本学における研究活動の全般を知るための九州芸術工科大学研究年報と併せて世に問うこととしたい。